

1.2 ケプラーの法則

・第2法則 (面積速度一定) を定量的に記述する

第2法則より、

$$\frac{dS}{dt} = \text{一定} = k \Rightarrow S = k(t - t_0) \dots (1.25)$$

時刻の基準とする t_0 は本来どんな値でもよ...が、今回は近日点Aを通過する時刻とする。さらに、公転周期 P とおいたときの楕円の面積は、

$$S(t_0 + P) = kP = \pi ab = \pi a^2 \sqrt{1 - e^2}$$

$$\xrightarrow{(1.25)} k = \frac{\pi a^2 \sqrt{1 - e^2}}{P}$$

ここで、公転周期 P の代わりに、 $n = \frac{2\pi}{P} \dots (1.27)$ で定義される平均運動 n を導入する。

微小扇形FPQの面積

$$dS \approx \frac{1}{2} FP \times QH = \frac{1}{2} r(r+dr) \sin df \sim \frac{1}{2} r^2 df \quad \left(\begin{array}{l} \because \sin df \approx df \\ r+dr \approx r \end{array} \right)$$

↑
2次の微小量を無視

であるから、面積速度は

$$\frac{dS}{dt} = \frac{1}{2} r^2 \frac{df}{dt} \dots (1.28)$$

ここからは、変数を (r, f) から u のみに変更して教える。

そのために、前章で楕円の媒介変数表示を教えるときに用いた

$$\begin{cases} r = a(1 - e \cos u) \end{cases} \dots (1.13)$$

$$\begin{cases} r \dot{f} = a \sqrt{1 - e^2} \dot{u} \end{cases} \dots (1.19)$$

の2式を使って変数変換を行っていく。

(1.28)に(1.13)と(1.19)を代入すると、

$$\frac{dS}{dt} = \frac{1}{2} r \cdot r \dot{f} = \frac{1}{2} a^2 (1 - e \cos u) \sqrt{1 - e^2} \frac{du}{dt} \dots (a)$$

よって、

$$\frac{dS}{dt} = \dot{k} \stackrel{(\because 1.26)}{=} \frac{\pi a^2 \sqrt{1-e^2}}{p} \stackrel{(\because 1.27)}{=} \frac{1}{2} n a^2 \sqrt{1-e^2} \quad \dots (b)$$

(a), (b)より

$$\frac{1}{2} a^2 (1 - e \cos u) \sqrt{1-e^2} \frac{du}{dt} = \frac{1}{2} n a^2 \sqrt{1-e^2}$$

$$\Rightarrow (1 - e \cos u) \frac{du}{dt} = n \quad \dots (1.29)$$

(1.29) を時間について積分する

$$u - e \sin u = n(t - t_0) \quad \dots (1.30)$$